中国訪問記 (1)

文化大革命の中でつらぬかれる大衆路線

宮浦　坂口直行

自分の目でたしかめて

八月一日羽田空港を出発しまして、九月三日まで、一カ月間にわたる中国訪問を無事終了しましたことは、ここに皆様方の心からの御支援、御協力に深く感謝する次第です。

わたくしたちは香港で一泊して九竜駅から汽車で羅湖へ、いよいよ国境の町深圳より広州へ、そこで中国での一夜を迎えて、文化革命さらに紅衛兵運動のまっただ中を、北京、西安、延安、さらに沈陽（昔の奉天）撫順、上海、武漢長沙など、主として革命とゆかりのある各地を実際に当時のことを思い浮かべながらの旅でした。

それは、わずか四〇数年前にはたった五二名の中国共産党員から初まって、いまでは数千万の前衛が七億近くの人民を動かしています。それもかっては泥棒と阿片、不衛生や利己主義でどうしようもできなかった旧中国を、いまではホテルの鍵も開け放しで安心できるし、世界で一番清潔な新中国に変えたというこの人間の奇蹟に近い改造をなしとげた中国革命と大衆路線の秘密はどこにあるのか、またあったのか、これをからだでつかみとるための旅でした。

心からの歓迎

しかし、一カ月の日程でありますので、わたくしたちが中国を目で見、耳できき、肌で感じながら学習し、体験したものは質量ともに限界があり、したがって報告書のもちろん十分なものとは考えておりません。しかし中国の人民・党・総工会および国家の指導者が心からわたくしたちを歓迎し、わたくしたちの研究、調査、学習に最大限の便宜を与えられたことに感謝しながら友好連帯を深め、さらに日中両国人民の戦斗的友情を結びあい、アメリカ帝国主義に対するベトナム人民のたたかいを支援し、その他諸問題について相互理解を深めて参りましたことは大きな成果と思います。

わたくしたちは、プロレタリア文化大革命の忙しいなかを、日本人として訪れる機会がなかった人民解放軍陸軍第一九六師団をたづねてみて、人民解放軍の大衆路線が脈うつ大衆への奉仕と自己への厳しさを、しみじみ感じる。

解放軍の規則

中国解放軍に「三大規律八項注意」とよばれるのがあります。

その三大規律は①一切の行動は指揮に従うこと。②大衆のものは針一本、糸一しんとってはならない。③カンパや捕獲した物資はすべて公にすることである。

八項注意

①言葉づかいはおだやかにする②買物は公正におこなう。③借りたものは必ず返す。④こわしたものは弁償する。⑤人をなぐったりののしったりしない。⑥作物をあらさない。⑦婦人をからかわない⑧捕虜をいじめない。というものです。こういってみるとごくあたりまえのことで、普通の社会人の常識とされているものばかりです。

苦しい歴史の中で

まずわたくしたちは、この三大規律八項注意の生いたちをみてみましょう。この当時の赤軍は、毛沢東首席が指導した一九二七年一〇月の湖南省江西省の〝秋の刈入蜂起〟に参加した農民と、同年の八・一南昌蜂起直後広東省で国民党に追われ、井岡山にたどりついた朱徳・林彪・陳毅らの率いる兵士、賀竜の旧部隊を合流させたものでありました。だから兵士の中には、斗い疲れた者、心のすさんだ者、殺気だっている者、規律を守らない者、字の読めない者が沢山いりまざっていたことが容易に想像できます。

そういう雑軍ともいえる兵士を犠牲をいとわず大衆に奉仕し、規律を守り、品位を備えることによって人々から愛され、尊敬される赤軍に訓練し、統一していくことの困難さは、いま考えてみてもたいへんなことです。

大衆への奉仕

しかし、あえてこの訪問記で、これをとりあげるのはつぎの理由からです。すなわち、大衆と深く交わり、大衆に奉仕し、大衆にささえられ、大衆にたよってこれを基礎とする革命政党の絶対不変の真理と条件が、するどく、しかも素朴に語られていること。

いま一つは、中国共産党が発展し、革命をなしとげ、かつ、ゆるぎない政権の基礎を固めた四〇年余の歴史のいたるところに、この思想が脈うっていること。人民大衆は解放軍と人民との日常的な関係をとおして、またみずからの体験をとおして、解放軍に対する古い考え方をすっかり改めた。

解放軍に力があるのは、この解放軍に参加しているすべての人々が、みな三大規律八項注意をおたがいが守っているからであり、彼らが少数の人間、または小さなグループの私利私欲のためでなく、広範な人民、大衆の解放、民族の解放、人類の解放のために結束してたたかっているからです。しっかりと人民の側に立ち、誠心誠意人民に奉仕することこそその解放軍の唯一の根本精神であるからです。

趣味をめぐる ④

多彩な趣味 気楽に、気長に

宮浦　本田恒信さん

内助の功

本田さんは、お茶、お花の他レース用の鳩を飼い、何十種類ものサボテンを集めたりしている採炭夫である。

お茶は裏千家、お花は池坊、はじめてから二〇年にもなる。二、三年前まで三化や東圧に教えに行っていたが、採炭しながらではとても続けられなくてやめたそうである。

奥さんにいわせると「趣味など通りこして道楽ですよ。人からは〝いい趣味を持たれていいですね〟といわれますが、私の苦労は金のことからいろんな世話まで大変なものです。男は何も考えないで打ちこめるからできるのではないでしょうか」と語る。それに対して本田さんも「妻の協力なしにはできませんね」と内助の功に感謝している。

三池労組にいる理由

こんなことがあった。長女が生れたとき、少しもあわてず本田さんはお茶をたてて助産婦さんにすすめた。「やりくりで頭がいっぱいになる私にくらべていつもゆとりのある主人がうらやましい」と奥さんは語る。

二年八カ月結核療養ののち、斗争直後復転したとき、会社は第一日目から採炭に繰り込み、転制から切り崩し説得をうけ、それをことわると差別配役で一番きつい切羽だった。

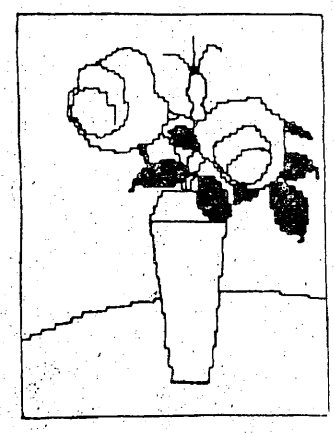
毎日ごはんがのどを通らず、ミルクで仕事に出たという本田さんは「人生、こせこせしてもはじまらない。どんな場合も息のつづかんことをしては窒息する。気楽に、気長に、何ごとも根気です。人間は精神的な苦労ほどきついことはない。私は気がねしないで気楽だから、三池労組にいるんですよ」という。それはお茶や、お花の心にも通じている。

心にゆとりを

「サボテンは姿の美しさです。花にみられないよさがあります」「お茶には茶わん、水さしなど自分で焼いたのを使います。これは小岱の土。こちらは家の庭の土なんですよ。おもしろい焼ができるんですよ」と素人ばなれした手づくりの茶道具のいろいろをみせてもらった。

「鳩が生きものだから一番むづかしい。しかし、かわいいですね。三〇羽いる鳩の顔もみんな判ります。以前は京都から大牟田までなどのレースで優勝しましたが、いまはやってません」

「生活を楽しむのに酒やパチンコという人もいます。また、私のように趣味で楽しむ者もいます。金はなくとも工夫して、ゆとりのある精神生活をもつことも大切ではないか」と話はつきない。



火花

拝啓　みなさまお元気ですか。九州の方でも、もう紅葉もはじまり美しく感じられるころではありませんか。

出発のとき

は盛大なお見送りまでしていただき、たいへんありがとうございました。いまでも、あのときの想い出は忘れられません。

日本を離れてもう二カ月ちかくになりましたが、日本にいたときに心配していたような言葉や食事も、あまり不自由することなくすごしております。

いま勉強している民族友好大学はモスクワ市街からバスで約三〇分くらいのところにあり、静かで景色もよく、はるか地平線まで見渡すことができます。

授業は先生一人に生徒七人で、まったく恵まれた環境で、日本のいまの教育ではちょっと考えられない環境です。

僕のクラスはアフリカ、キプロス、シリア、セイロン、これに日本（僕一人）からなっています。いまのところロシア語を少しはさんで英語で話しあっています。毎日の日程は、朝九時から午後三時まで昼食ぬき、一時間は五〇分授業できたわれています。

いま文法と発音、それに体育の時間がありますが、発音の時間はとくにきびしくて、ときには鉛筆を口のなかに突っこまれて、こんなときに先生が「ハラショー、ハラショー（たいへんよい）」といわれ苦笑しています。でも、そのくらい先生は熱心で、誠意をもってやってくれますので、とくに遅れるような人もいません。

そちらでは、三池労組の方々が新労の四分の一になったことをききたいへん残念に思っています。

どうかこれからも、日本労仂組合の最先端をいかれる人々としてよりよい社会をつくるため、大いに頑張ってください。

ではみなさま身体には気をつけて仕事にお励みください。

敬具

一九六六年一〇月五日

モスクワにて・村田　優

三池労組のみなさまへ

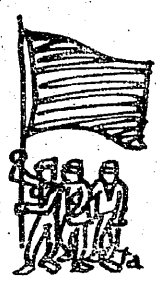
▽　△

村田優さんは本所支部・村田義晴さんの長男で、本年八月一二日に大牟田を出発しモスクワ民族友好大学に入学した。

新空港に絶対反対

三里塚で総決起大会

新国際空港設置に反対してたたかっている千葉県成田市三里塚地区では、十月二日午後一時から、成田市営グランドで三里塚新国際空港撤回・公団撃滅総決起大会を開き、たたかいの決意を新たにした。

この日、現地の農民約三千人、支援の労組・民主団体約二千人（主催者発表）は、しのつく雨をついて、正午すぎから続々と会場につめかけた。農民は「空港反対」のハチマキ、手には「金は一時、土地は末代」「農民の土地をうばい農業を破かいするな」「騒音と公害反対」「安保条約で軍事利用される新空港絶対反対」などいろいろな要求や決意をこめたプラカードとむしろ旗。主婦や娘さんとおばあさんたちもそろいのモンペ姿に身をかためて参加した。

大会にはさきに空港設置を撤回させた富里・八街（やちまた）地区代表も参加し、空港粉砕をたたかいとることを決議した。